障がい者「定期相談会」のご案内

障がいをお持ちの方やその家族、その他支援されている皆さんへ障がい・難病などに関わる色々な悩み・困りごと（例 就労や日常生活でのサービスのことなど）について、専門の相談員が対応します。
お気軽にご相談ください。

相談無料

と　き　3月18日（水）　午前9時30分～11時30分
ところ　本庁１階　会議室
その他　待ち時間を少なくするため、電話での事前申し込みをお勧めします。

申し込み・問い合わせ先　本庁　健康福祉課　障害福祉係　☎0968・86・5724
総合支所　福祉課　地域福祉係　☎0968・34・3111（内線760）

参加してみませんか？ 認知症家族介護者のつどい

参加費無料

認知症の人を介護されているご家族で、心がちょっと疲れたかな？と思った人。この“つどい”に参加してみませんか。
“つどい”は、参加した人たちが日ごろの介護についての疑問など、何でもお話しいただける場です。同じ介護を経験している人たちと話すことで、介護のヒントが見つかるかもしれません。
お気軽にご参加ください。

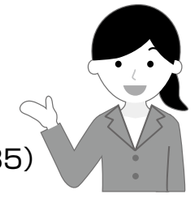
と　き　3月25日（水）　午後1時30分～3時30分
ところ　和水町福祉センター
参加対象　町内で認知症の人を介護しているご家族および経験者

問い合わせ先　本庁　健康福祉課　地域包括支援センター係　☎0968・86・5724

豊前街道顕彰会 学習会のご案内

参加費無料

歴史街道についての学習会を開催します。
今回は、豊前街道と同じように歴史の道として残っている日向往還について、山都町教育委員会の大津山恭子さんに講演していただきます。
お気軽にお越しください。



と　き　3月7日（土）　午後1時30分～
ところ　山鹿市立博物館　研修室（山鹿市鍋田2085）

問い合わせ先　豊前街道顕彰会事務局（三加和公民館内　社会教育課）　☎0968・34・3047

自分らしい最期を迎えるために

1.いつかは誰にでも訪れる。

病院は、もちろん皆さんの健康を守り、病気を治療するところです。しかし、それとともに、誰にもいつかは訪れる最期をよりよく迎えるために協力するところでもあります。人生の最期を、ご本人ができるだけ納得して、ご家族も満足して、穏やかに迎えることができるようにするには、前もって少し考えておくことをお勧めします。

2.今から少し想像しましょう。

誰にでも最期は訪れます。具体的には、癌を患う、脳卒中になり寝たきりになる、認知症が進行する、重い肺炎になる、といった病気が考えられます。自分で考えることができなくなったり、動けなくなったり、ものが食べられなくなったりするような状態です。標準的な治療を行っても、回復の見込みがないときには、悲しいことですが、その人がその人らしく最期を迎える手立てを講ずる必要があると思われます。

3.具体的なことをあらかじめ考えておきましょう。

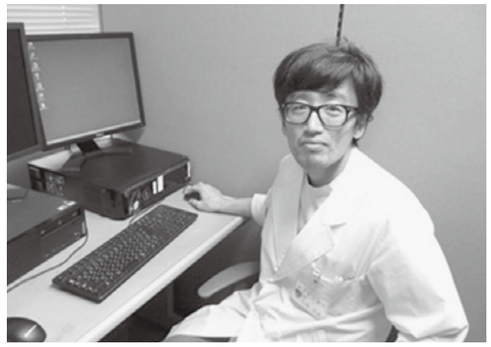
これまで述べてきたような状態が訪れることは、自然なことです。そして、最期をどう迎えたいか、どういう治療・ケアを望むか、望まないかを決めるのは、まずは、自分自身でしょう。周りの大切な人の意見も踏まえることも必要でしょう。そして、最期の迎え方に“教科書”はありません。いざというときに自分で判断できなくなるかもしれず、あらかじめ具体的に考えておくほうがよいと思われます。

具体的には、①最期にあたって優先させたいこと ②自分が判断できなくなった時に誰に考えを託すか ③最期を迎える場所　④より高度の治療を望むか（大きな病院への搬送）　⑤経口摂取が難しくなったときの点滴、大きな静脈からの栄養、管を使った腸への栄養、胃瘻など　⑥繰り返す感染症に対する抗生剤治療　⑦酸素の投与　⑧終末期の気管内挿管、人工呼吸器の装着、心臓マッサージ　⑨心臓を強める薬の使用　⑩終末期近くの体に負担のかかる医療（癌閉塞部位に対する処置など）といったことです。

“教科書”はないとは言いましたが、最近は単なる延命を図ったり、高い効果の期待できない治療を受けるよりも、苦痛の緩和を十分行い、安らかに最期を迎えたいと考える患者・家族が増えてきています。しかし、最期まで可能な治療を続けて欲しいという人、話ができなくても生き延びて欲しいという家族もいらっしゃるかもしれません。

4.和水町立病院は、穏やかな最期を迎えるために、支援します。

病院は、患者が外来に通院されているときから、どういう最期を迎えたいかの把握に努め、いよいよ最期近くになられたときには、あらゆる悩み・不安に耳を傾け、患者や家族が安らかな死を迎えられるように全力で支援いたします。苦痛や痛みは徹底して緩和することをお約束します。また、自宅で最期を迎えたいという希望があれば、在宅でのケアをお手伝いします。まずは、外来で、気軽にお話しをしましょう。



和水町立病院　内科医　**佐藤 孝彦**